



2026 年10月19日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 京 進
(コード番号 4735 東証スタンダード)
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 立 木 康 之
問 合 せ 先 取 締 役 経 営 管 理 本 部 長 兼 財 務 部 長 松 原 博 之
電 話 (075)365-1500

2027年2月期第 2 四半期決算に関する Q&A

2026 年10月9日に公表した 2027年2月期第2四半期決算に関しまして、公表以降に株主様、投資家様などの方々からいただいた主なご質問とその回答を以下の通りお知らせいたします。なお本開示は、市場参加者の皆様のご理解を一層深めることを目的に、自主的に実施するものであります。

1. 「前年同期」の比較について

Q1. 前年同期の数値は、旧決算期の第 4 四半期と、新決算期の第 1 四半期を合算したものという理解でいいでしょうか。

A1.

前連結会計年度において該当する同期間(前年3月～8月の6ヶ月間)が存在しないため、当中間連結会計期間の業績説明におきましては、比較の適切性を考慮し、前々連結会計年度(2025 年5月期)の第4四半期にあたる期間(2025 年3月1日～2025 年5月 31 日)と前連結会計年度(2026 年2月期)の第1四半期にあたる期間(2025 年6月1日～2025 年8月 31 日)を合算した前年同期間(2025 年3月1日～2025 年8月 31 日)を「前年同期」として算出し、参考比較を記載しております。

Q2. 今期第1四半期に費用が増加している要因を教えてください。

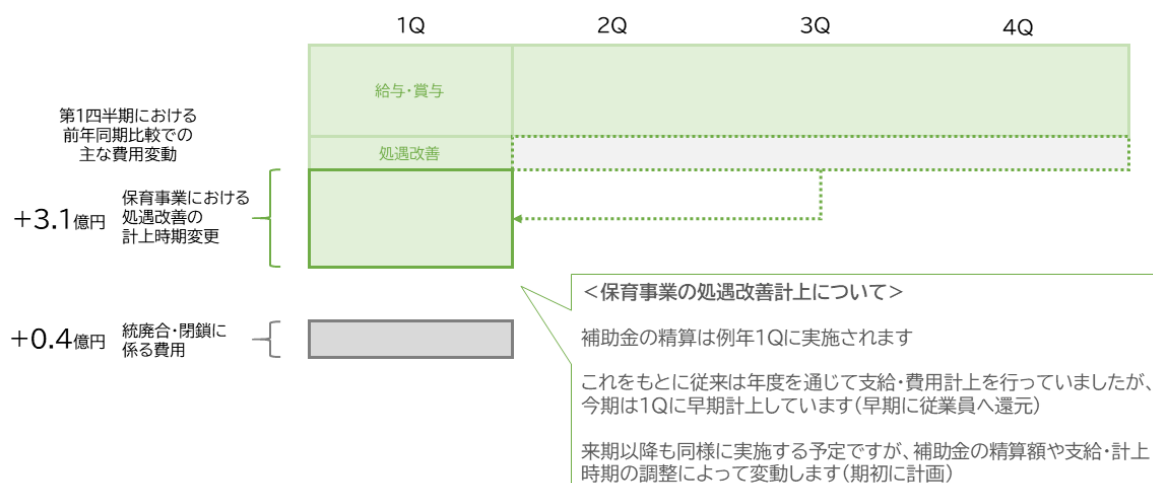
A2.

特に人的資本投資の位置づけで、保育事業における処遇改善の支払・計上時期を変更しております。行政からの補助金収入の精算は第1四半期に実施されます。これをもとに従来は年度を通じて支給・費用計上を行っていましたが、今期は早期に従業員へ還元すべく第1四半期に計上しました。この影響により第1四半期に費用が一時的に集中しています。来期以降も同様に実施する予定ですが、補助金の精算額や支給・計上時期の調整に応じて変動します。それ以外に今期特有の費用として、統廃合・閉鎖に係る費用を第1四半期に計上しています。こちらは統廃合・閉鎖の時期や規模によって変動します。

四半期の利益変動に関する補足説明



第1四半期に費用偏重(一時的に集中)



※上記の図はあくまで変化を模式的に示したもので実際の費用の大きさを表しているものではありません。

Q3. 通期の業績見通しについて詳細を教えてください。

A3.

中間期で営業利益 52百万円を計上、通期では 785百万円を見込んでおり、下半期で大きく利益計上する見通しとしています。

これは、学習塾事業において春先の生徒数が最も少なく、秋冬にかけて積みあがっていくという従来からの事業特性に加え、Q2 でのご説明通り、今期は、計画の上第 1 四半期に費用を集中させていることが影響しております。

学習塾事業は昨年の秋以降から業績改善傾向にあり、前年からの改善見通しとしては小幅にとどめていますが、既存校舎の生徒数増加による増収効果、閉鎖に伴う固定費削減効果を見込んでいます。

語学関連事業は、日本語学校の 4 社統合による運営効率化や入学生の回復による増収効果を見込んでいます。

保育・介護事業は、保育事業における処遇改善費用の計上時期を第 1 四半期に集中させた反動で、下半期にはプラスの効果となります。また、保育、介護どちらも高稼働率を維持しており、この効果による改善も寄与する見込みです。

